

3年生の皆さんへ

家庭学習の手引き

【令和7年度版】



不動中学校 年 番

氏名

学力をつけるためのポイント

① 学力の基盤は生活習慣

学力というものは毎日こつこつと努力を積み重ねることではか身につけません。そのためにはまず**生活習慣**を整えることが重要です。

生活のリズムが乱れていては学習を続けることができなくなり、学力が身につけません。学力を身につけるには生活習慣が大切であることを意識して生活しましょう。

1. 体調を整える。健康第一。
2. 3度の食事をきちんと取る。
(特に朝食。朝食を摂らないと脳が活発に働かない。)
3. 遅刻をしない。(自分で起きる)
4. 忘れ物をしない。(持ち物は前日にそろえる)
5. 夜遅くに勉強しない。1時を越えない。

② 学校での学習

まずは**授業が勝負**です。

「分かりたい」という気持ちをしっかり持って、授業に臨みましょう。

1. 先生の話や友達の意見をしっかり聴く。
(ノートを書きながら聴くと内容は頭に入っていない。)
2. わからないことは、その授業があった日に解決しよう。
(先生や友達に質問しよう。質問する力も学力のうち。)
3. 進んで発表する。
(発表したことはよく覚えられる。)
4. ノートは授業中にまとめる。
(黒板を写すだけでなく、ポイントなどはメモを取る。)
5. まちがいはチャンス。
(間違ふことで、内容が強く印象に残ります。)

☆3年生の学習は、1、2年生の復習と3年生で習うことを同時進行で行いましょう。家庭では1、2年の復習を中心に学習し、3年生の内容は授業で覚えるつもりで取り組み、余った時間で復習しましょう。「千里の道も一歩から」

③ 家庭での学習

たとえ宿題がなくても、毎日の家庭学習が大事です。それは授業で理解したことについて時間をかけて覚え、何回も解き、練習することが必要な教科もあるからです。だらだらと長い時間をかけるより、**集中して取り組む**ことが必要です。毎日必ず家庭学習を行う時間をつくりましょう。目安は3時間。

1. 宿題は必ずする。

2. 学習を習慣化する。

決まった時間に、決まった場所で学習する。遅くまで勉強しても思ったほど効果は上がりません。それどころか生活のリズムを乱し、朝起きられなくなります。さらに学校の授業が集中できず、悪循環になってしまいます。

3. テレビを見ながら・・・、音楽を聴きながら・・・スマホをいじりながら・・・といったような「ながら」勉強はしない。

テストも受検も静かな環境で受けます。だからこそ、集中できる環境で勉強しましょう。

4. 自分にあった学習の仕方を工夫・改善する。

教科書や参考書をただぼんやり眺めていても効果は上がりません。声を出して読んでみたり、ノートに何度も書いたりして覚えよう。また、要点をノートにまとめ、覚えられたかを問題を使ってチェックをするとより内容が定着できます。

5. 『自主勉強ノート（整理と対策）』を、毎日提出をする。

6. 「整理と対策」以外に自分にあった問題集を購入して学習する。

問題を解いたら必ず答えを確認し、間違えたものは2度、3度とやり直し、同じ間違いを繰り返さないための学習が大切です。

では、各教科の学習の仕方を参考に効果的な勉強を続けよう。

「継続は力なり」

国語の力をつけるためのポイント

～苦手を克服するために～

～授業でのポイント～

- ① 授業に前向きに取り組む。
(私語をせず、よく話を聴く。忘れ物をしない。提出物は期限を守って必ず出す。)
- ② 自分の意見をしっかり書いたり、発表したりする。
- ③ 授業で「分からないな」と思ったら、そのままにせず、質問する。

～みなさんの悩みから～

Q. 国語の記号問題を攻略するには？

A. 正解を探すのではなく、間違いを探して消去法で選ぶこと。

出題者は1つの選択肢の中に正しいことと、間違っていることを一緒に入れて惑わそうとします。つまり、正解だけを即座に見つけるのはとても難しいということです。間違いが1つでも混ざっていれば、その選択肢を消去し、残ったものが答えになります。

Q. 古文・漢文を攻略するには・・・

A. ①必要単語を覚える。→ ②主語を意識して読む。→ ③古文に慣れる。

- ① まずは必須の単語を覚えましょう。ただし、古文は全ての単語が分からなくても十分、パーフェクトを狙えるので、本文に出てきたものを全て覚える必要はありません。
- ② 古文が苦手になってしまう最大の原因は、「主語が分からなくなる」ということにあります。古文では、主語が省略されていることが多く、誰が動作しているのかが分かりにくいのです。

主語を見極めるポイント

1. 「の」に注目する。

古典の中に出てくる「の」は、「が」に置き換えられることが多く、その上に主語となる人物がくることがある。

2. 「と」に注目する。

会話の部分に「 」がついていないことが多いのも古文の特徴です。「と」に注目することで、会話文を判別しやすくなり、おのずと主語も分かるようになります。

- ③ 古文・漢文は、中学校の3年間でふれる回数が他の文章に比べて少なく、

Q. 作文が書けるようになるには・・・

作文が書けない理由は、大きく分けて3つあります。まずは、自分がどのタイプかを見極めてください。

- ① 書く内容はあるが、書き方が分からない。
- ② 書く内容がないので、書けない。
- ③ 書く内容がないし、書き方も分からない。

A. ① 作文の書き方のプリントを参考に形を覚えてみる。

② 作文の条件をよく読み、出題者の立場から書くべき内容を決める。

※書くべき内容は、条件の中に書かれています。

毎日の生活の中で自分が考えたことがないことを考える機会をつくる。

みなさんになじみがありませんから、不安になるのも当然です。ただし、それはどの中学生にもいえることなので、裏を返せばチャンスともいえます。なぜなら、みなさんには「PUT」があるからです。「PUT」では、みなさんに数多くの古典の問題を解いてもらいます。しっかり慣れましょう。

- ① 作文は減点方式で採点されます。自分で文章を作るのが苦手な人は、ぜひ、型を覚えてそれを応用してみてください。
- ② 作文で見られるのは「書く力」です。「お題の内容が書けない…」という理由は、「今までに考えたことがないから」という理由が多いものです。この1年で、自分が普段考えないようなことにもしっかり目を向けて自分の「意見」とその「理由」をもつクセをつけましょう。

(例) 「自分が一番大切にしているものは何か」

「人とのコミュニケーションで最も大切なことは何か」 など

☆『整理と対策』の使い方 ☆

- ① 解き方やポイントをまとめてあるページを中心に、ノートにまとめ直してみよう。
(特に、文法や熟語、漢字などは何度も繰り返し学習して覚え込むこと)

- ② 文章問題は必ず2回以上はやろう。
※ただし、何度も繰り返しやって内容を覚えてしまっただけでは意味がありません。同じ問題に取り組む際は、ある程度の時間をおいてからにしましょう。

- ② 分からなかった問題は決してそのままにせずに、自分で調べたり、先生や友だちに聞いたりして必ず分かるまで取り組もう。

学習は一朝一夕に成果が上がるものではありません。毎日の努力が大切です。

数 学

1. 家庭学習のポイント

(1) 予習の仕方

①既習内容からの予習

数学は小学校や前の学年での学習をベースに、積み上げながら学習していきます。新しい内容の単元に入る前に、以前に学習した同じような単元を思い出しておくことが重要です。

②日々の予習

次の授業で習う教科書の内容に目を通して、分かりにくいところを確認しておく、授業中に学習すべきところがはっきりします。

(2) 復習

①ワーク類で確認

授業で習ったところに対応したワーク類の問題を解き、本当に分かっているかを確認します。間違えたり、分からなかったりしたときは、教科書やノートを見返しながら納得できるようになっておきましょう。

②分からない問題は時間をおいて再チャレンジ&質問

「分からない問題」はチェックしておいて、少し時間をおいてからやってみることをオススメします。再チャレンジしてみるとパッとひらめくことがあります。それでも分からない問題は、先生や友達に質問しましょう。

③テスト対策は効率よく取り組む

テスト範囲のすべてをやり直す必要はありません。自分の苦手なところや重要な公式などを中心に対策しましょう。

2. 各単元のポイント

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 数と式…とにかくたくさん問題を解く。必ず途中式を書く。(2) 図 形…公式や性質を覚え、問題のパターンに慣れる。(3) 関 数…解き方のパターンは“代入”。何をどこに“代入”するか。(4) テータの活用…まずは用語を覚え、問題のパターンに慣れる。 |
|--|

数学の学習は毎日行うことが大切です。毎日10分でいいので、問題を解きましょう！！

社会

授業について

- 1 忘れ物をしない。
- 2 先生の話をよく聞く。
- 3 ノートにしっかりまとめる。

ポイント

- ・丁寧な文字で書き、後で使えるノートにしましょう。
- ・見出しや学習課題をページの頭（最初）に書きましょう。
- ・余白ができてでも詰めないで、次の授業（単元）は新しいページから書き始めましょう。
- ・自分の意見や自分で調べた内容は消さないで置いておき、他の意見や内容はさらに書き足すようにしましょう。

- 4 自分なりの意見を考え、表現する。

- ・理由や根拠をもとに考えよう。

家庭学習について

【ふだんの勉強のしかた】

- 1 教科書を読み返しましょう。
教科書は最高の参考書です！！何度も読み返そう。
- 2 自主学习ノートに取り組みましょう。
 - ①教科書の本文を書き写す。
 - ②授業ノートをもう一度書いてみる。
 - ③ワークの問題を解いていく。

【定期テストに向けての勉強のしかた】

- 1 早めにテスト勉強に取りかかる。
- 2 ワークを繰り返ししよう。
 - ・答えを隠して何度もくり返し解いていきましょう。
 - ・自主学习ノートを利用し、答えを書いて覚えよう。

入試に向けて

1 授業を大切にしよう。

実力テストの点数を上げるためには、1，2年生の地歴の復習に時間をかける必要があります。だからといって、3年生の授業をおろそかにしてはいけません。3年生の授業の内容ももちろん入試に出ます。できることをできる時間にしっかりと取り組むことが大切です。

2 今、使っている「整理と対策」をパーフェクトにやり遂げよう。

① 問題を**何度もくり返し**取り組みましょう。

② 問題に出てきたことがらを**教科書で確認**しましょう。

分からない問題や間違った問題は、答えを書き写すだけでなく、必ず教科書で調べてみることが大切です。歴史、地理、公民の教科書のどのページに載っているか、巻末の「さくいん」などを使って調べましょう。

③ 問題に出てきた**年表、資料（グラフや写真）、地図**を教科書などで確認しましょう。

最近の入試問題の傾向として、年表、グラフ、地図などの資料を読み取り、答える問題が多くなっています。「整理と対策」に出てくる資料が教科書に出ているかどうか確認しましょう。

3 実力テストや定期テスト、基礎学力テストをいかそう。

① 間違った問題を**必ずもう一度**しましょう。

② 問題に出てきたことがらを**教科書で確認**しましょう。

分からない問題や間違った問題は、答えを書き写すだけでなく、必ず教科書で調べてみることが大切です。歴史、地理、公民の教科書のどのページに載っているか、巻末の「さくいん」などを使って調べましょう。

③ 問題に出てきた**年表、資料（グラフや写真）、地図**を「整理と対策」や教科書などで確認しましょう。

最近の入試問題の傾向として、年表、グラフ、地図などの資料を読み取り、答える問題が多くなっています。資料を印象づけて、語句や内容を覚えていくとよいでしょう。

入試対策に近道はなし！

こつこつと、そして何度も繰り返すことが大切です！

理 科

理科学習のポイント

1. 基本用語を覚える

一問一答問題を一問でもいいので多く覚えること。何度も何度も繰り返し見直して覚えてください。基本用語そのものが解答になっている問題もありますが、基本用語が問題文の中に入っている場合もあります。このとき、基本用語を覚えていなければ、意味が分からず問題に取り組むこととなります。そのようなことでは、正解を導き出すことはできません。余裕があれば、解答だけを見て、問題を推測できるようになればよりいいかも知れません。

2. 実験・観察を覚える

1～3年の教科書で紹介されている実験・観察は実は約60種類しかありません。まず実験・観察の図をなんとなくでいいので覚えます。次に実験・観察の注意点や使用する薬品名などを覚えます。最後に実験・観察の結果がどのようになるかを覚えれば完璧です。

3. 計算をマスターする

1～3年で出題される計算問題をおおざっぱにまとめると、
1年では、地震の発生時刻や震源距離、密度、質量パーセント濃度、フックの法則
2年では、圧力、飽和水蒸気量や湿度、金属と酸素が化合する量、電気（電圧、電流、電気抵抗の関係）
3年では、太陽の日の出や日の入りの時間、速さ、仕事
になります。自分が取りかかりやすい分野から覚えていくといいと思います。

4. 身のまわりの現象に興味をもつ

理科は生活と密接に関係している教科です。ある現象に対して「なんでだろう」と疑問を持ち、それについて調べる。それで立派な理科の学習になります。身のまわりには「なんでだろう」と思うようなことがたくさんあります。何気なく過ごしていたことでも気をつけて見てみると何か気になることがあるかもしれません。

「整理と対策」について

何度も問題を解くことが重要ですが、分かっていたり、できた問題を何度も解く必要はありません。分からなかった、間違った問題を何度も解いて、分かるように、できるようになることが大切です。そうするためには分からなかった、間違った問題にチェックを入れ、後から解き直すときはチェックがある問題だけを解き直すと効率よく何度も問題を解くことができます。チェックが何個もある問題は自分にとって苦手問題であることがわかります。

○「整理と対策」中の計算問題の紹介

- ・ 質量パーセント濃度 P. 18, 19
- ・ 地震 P. 40, 41
- ・ 1年のキホン P. 48, 49
- ・ 化学変化と質量 P. 64, 65
- ・ 圧力 P. 88
- ・ 水蒸気量 P. 89
- ・ 電気 P. 98, 99
- ・ 2年のキホン P. 106, 107
- ・ 仕事 P. 134, 135
- ・ 計算問題集 P. 164, 165, 172, 173, 180, 181

**勉強に近道はなし！
コツコツ毎日勉強すること！**

英 語

【授業でのポイント】

○集中して聴く。

授業では説明をしっかりと聞いて、重要ポイントを理解しましょう。
黒板の内容をきちんとノートにまとめることはもちろん、大事なことはしっかりとメモしましょう。

○声に出して発音する。

英語をよく聞いて大きな声で発音しましょう。

○いろいろな活動に積極的に取り組む。

英語は、ことばの学習です。ただ黙って座っているだけでは身につけません。
「読む・聞く・話す・書く」などの活動に積極的に取り組みましょう。

【家庭学習のポイント】

○授業で習ったところを、徹底的に復習する。

①音読（英単語・基本文・本文を声に出して読みましょう。）

②その後で、繰り返し読んだり書いたりしましょう。

（単語カード・基本文カードを作り、自分でテストをしてみましょう。）
忘れていても、繰り返し思い出すことで定着していきます！

③教科書を学習した後は、まとめとしてワークをしましょう。

○予習をして授業をうける。

単語の意味調べをし、教科書の本文を音読してきましょう。

○英語に触れる機会を作ろう。

- ・ALTの先生に積極的に話しかけましょう。
- ・英語の本（絵本や小説など）を読みましょう。
（英語教室や図書室にあります。）
- ・タブレットを有効に活用しましょう。
ミライシードやキュピナなどの問題にチャレンジしましょう。
- ・英語で日記や手紙などを書いてみましょう。
辞書を利用して書くことで語彙力や表現力が身につきます。